

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—199221

⑬ Int. Cl.³

B 60 K 13/02

F 02 M 35/10

// B 60 H 1/26

識別記号

庁内整理番号

7725—3D

6657—3G

6968—3L

⑭ 公開 昭和58年(1983)11月19日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑮自動車における外気取入ダクト配設構造

自動車株式会社テクニカルセンタ
ー内

⑯特 願 昭57—82834

⑰出 願 昭57(1982)5月17日

⑱発 明 者 表和明

厚木市岡津古久560—2 日産自

⑲出 願 人 日産自動車株式会社

横浜市神奈川区宝町2番地

⑳代 理 人 弁理士 志賀富士弥

明 細 書

1. 発明の名称

自動車における外気取入ダクト配設構造

2. 特許請求の範囲

(1) エアクリーナーに連通する外気取入ダクトを、エンジンルームの前壁を構成するラジエータコアサポートパネルよりも前方に導出して車幅方向に延設し、該外気取入ダクトとフードパネル間にフードシールラバーを介在したことを特徴とする自動車における外気取入ダクト配設構造。

3. 発明の詳細な説明

この発明は自動車のエンジンの燃料供給装置に空気を供給するための取入ダクトの配設構造に関するものである。

一般に従来のエンジンルーム内に配置するエン

ジン本体及びその他各種装置のレイアウトは、狭いスペースを有効に使用する観点に立つて設計されており、燃料噴射式燃料供給装置を用いた場合に空気を供給する取入ダクトが吸入効率、騒音対策、吸込み空気温度等を考慮して長尺に形成され、しかもエンジンルーム内の他部品との干渉を避けつつ配置してあるのが通例である。その代表例を第1図の平面図及び同図のE—E断面を示す第2図の側断面図によつて概略的に説明すると、1は内面にレインフォース3を固定したフードパネル、2はラジエータグリル、4はラジエータコアサポートパネルであつてエンジンルームの前壁を構成するとともにラジエータ5を取付けている。ラジエータ5の後方にはファンベルト6によつて回転するラジエータ冷却ファン7が配設され、ファン

シユラウド8によつて送風ガイドしながら外気をラジエータグリル3を經由してエンジンルーム側へ導入し、ラジエータ5内のエンジン冷却水を熱交換するようにしている。ファンシユラウド8の上方空間にはエアクリナー9と連通する外気導入ダクト10が横設され、導入外気はエンジン本体11の燃料供給装置(図示せず)に供給されるようになつてゐる。12はバッテリー、13はラジエータコアサポートパネル4の上端に取りつけられてフードレインフォース3に弾接し、ラジエータ5によつて熱交換された空気が再度フロントグリル側に吹き返されて熱交換効率が低下することを防止するためのフードシールラバーである。

上記の従来構成にあつては外気取入ダクト10はラジエータ5を通過した後の高温雰囲気中のエンジ

ンルーム内空気を吸入することになり、エンジンの充填効率が低下する欠点を有している。又、前述のように主としてスペース的要因によつて外気取入ダクト10がファン7の上方に位置している為、フードパネル1を開放してファン7及びファンベルト6等を点検する際に、前記外気取入ダクト10が障害となつて点検を行い難いという欠点もある。

この発明は上記に鑑みてなされたものであつて、上記した従来の装置に存する欠点を解消し、エンジンへの空気導入効率の上昇と、ファンやファンベルトの点検整備の容易化を目的としており、この目的を達成するためにエアクリナーに連通する外気取入ダクトをエンジンルームの前壁を構成するラジエータコアサポートパネルよりも前方側に導出して車幅方向に延設するように配置し、外

気取入ダクトとフードパネルとの間にフードシールラバーを介在するようにしたものである。

以下この発明の実施例を第8図の平面図及び、そのB-B側断面図である第4図により説明する。図中、従来装置において説明した同一構成部品には同一番号を用いて表示してある。即ちラジエータコアサポート4aの上側パネル4よりもラジエータ5の手前から前方側にエアクリナー9に連通する外気導入ダクト14を導出してその先端部14aが車両中心に対してエアクリナー9とは反対側にまで延長するように配置されこの外気導入ダクト14の導出した部分は、ラジエータグリル3の上面14上に設置しており、フードパネル1のレインフォース3に装着したフードシールラバー13が外気導入ダクト14に弾接してエンジンルーム内空

気の逆流を防止するようにしている。ダクト14はラジエータコアサポートパネルの上側パネル4に打抜き孔を設けてこれを通させているが、上側パネル4の上部に切欠部や凹部を設けて通を挿通するようにしてもよい。従つて外気導入ダクト14は従来のようにラジエータ冷却ファン7やファンベルト6の上方を覆つておらず、上方よりファン7、ベルト6が見えるようにしており、しかもダクト14の吸込口はエンジンルーム内に開口しておらず直接外気を導入できるようになつてゐる。

上記構成において、ファン7や走行風圧によつてラジエータグリル3より吸入された外気は矢印0で示す如くラジエータコアサポート4aを通過した後、ラジエータ5において、熱交換してこれを冷却し、エンジンルーム内に導かれる一方、ラ

ラジエタグリル2の直上部に位置する外気導入ダクト先端部14aの吸入口には直接外気が矢印Dで示すように導入し、ダクト14を経てエアクリナー9には冷たい外気を供給する。従つてエアクリナー9は常に新鮮な外気を吸入することになり、従来のようにエンジンルーム内において高温化した空気を吸引することがないので、充填効率を上昇させることができるという大きな利点を発揮する。

更に従来のようにエンジンルーム内上方空間に外気導入ダクトがないので、それによつてフードパネル1を開放してエンジン本体11、ファン7及びファンベルト6等を点検整備及び部品交換を行うに際して、作業性が極めて良好になるという効果をもたらす。フードシールラバー13は、ダクト

のB-B線に沿う断面図である。

1…フードパネル、4…ラジエタコアサポートパネル、9…エアクリナー、14…外気導入ダクト、13…フードシールラバー。

14に弾接させているため従来のそれと比較してダクト分だけ短かくでき、小形軽量化することができるのでコスト低減に寄与する。

以上詳細に説明したようにこの発明によれば、外気取入ダクトをラジエタコアサポートパネルよりも前方側に導出することによつてエンジンに対する空気の取入効率を高めてエンジンの出力を向上させるとともにエンジンルーム内の点検整備を容易にするという大きな効果を発揮し、実用的価値が大である。

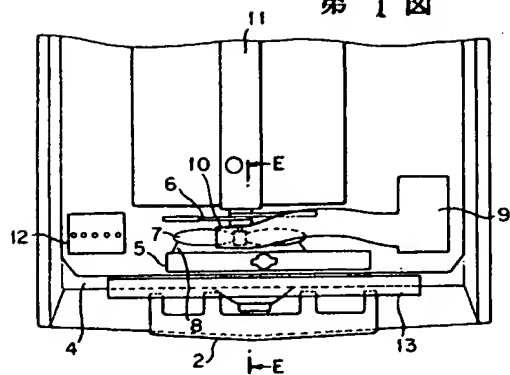
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の外気取入ダクトの配置状態を示すフードを開けた状態の平面図、第2図は第1図のE-E線に沿う断面図、第3図は本発明の実施例を示す第1図と同様の平面図、第4図は第3図

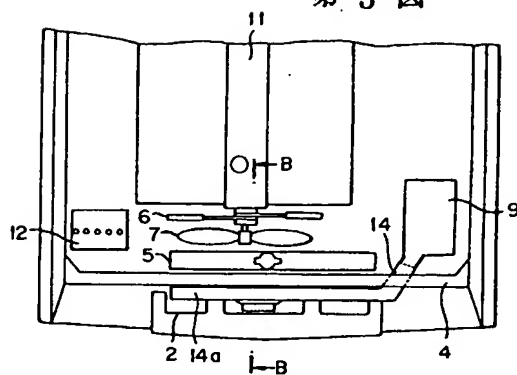
代理人 志 賀 富 士 弥



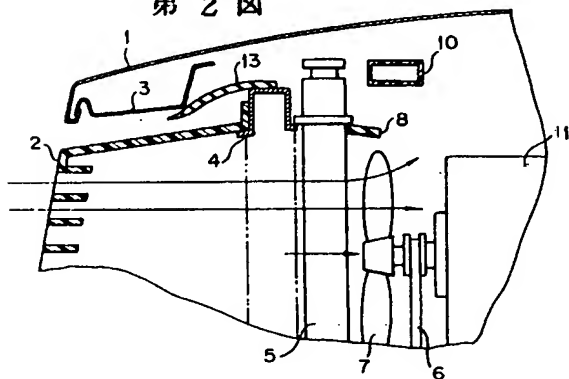
第 1 図



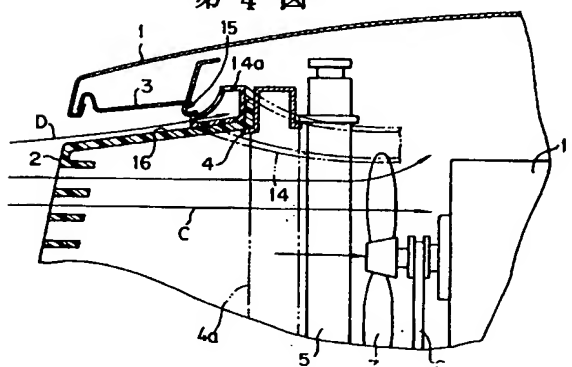
第 3 図



第 2 図



第 4 図



PAT-NO: JP358199221A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58199221 A

TITLE: ARRANGEMENT CONSTRUCTION OF AUTOMOTIVE ATMOSPHERE
INTAKE
DUCT

PUBN-DATE: November 19, 1983

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

OMOTE, KAZUAKI

INT-CL (IPC): B60K013/02, F02M035/10 , B60H001/26

US-CL-CURRENT: 180/68.1

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide improvement of air intake efficiency and accessibility for easy maintenance by prolonging an open air intake duct in communication with an air cleaner forth from the front wall of an engine room and then extending in the width direction of a car, and by interposing a sealing rubber between said duct and a hood panel.

CONSTITUTION: An open air intake duct 14 in communication with an air cleaner 9 is prolonged forth from the more front side of a radiator 5 than an upper panel 4 of a radiator core support 4a, and then extends until the front end 14a thereof reaches a position opposite to the air cleaner 9 with respect to the center of a vehicle. The prolonged part of said duct 14 is laid on the upper face 16 of a radiator grill 2. A hood sealing rubber 15 which is fit to a rain forth 3 of a hood panel 1 elastically abuts the duct 14 so as to prevent reflux of air inside an engine room. Thus, the duct 14 will not cover the upper area of a radiator cooling fan 7 and a fan belt 6, and an inlet of the duct 14 may open to outside air directly so that an expected purpose may be achieved.

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&Japio

----- KWIC -----

Application Date - APD (1):

19820517

Current US Cross Reference Classification - CCXR

(1):

180/68.1